

3.2.1 鹿島宇宙通信研究センター

活動概要

当センターの主な研究活動として、2002年ワールドカップサッカーの日韓衛星中継を目指したデモ実験、2周波電波による可動干渉計の宇宙監視機能確認実験、世界最高速のVLBI実験成功等があげられる。また、地域への情報発信及び科学技術の啓発のため、例年どおり一般公開を実施した。なお、雲レーダーグループは、8月に小金井へ組織の移動を行った。

活動結果

日韓W杯開催時の実験デモとして、キリンカップサッカーの試合（札幌）を衛星中継で青山会場と鹿嶋へ3画面パノラマ伝送実験を行い多数報道された（下図）。さらに、日韓実験の事前試験を重ねた。また、準天頂衛星の研究に関連し、三菱電機から独法化後初めての受託研究契約「準天頂衛星システムのITS及び測位システムへの適用検討と車載アンテナの試作」を受けた。宇宙監視では、可動干渉計の技術開発を進め、Ku/Cバンドの2バンドで結果の一致を実証し、実用に向け機能確認が進められた。VLBIの技術開発では、世界最高速の1Gbps実時間VLBI実験に成功し、また、磁気記録方式でも世界最高速の2GbpsのVLBI実験に成功するなど、IVS（国際VLBI事業）技術開発センターとして世界をリードした。なお、雲レーダーグループは、8月に小金井へ組織的に移動を行った。

研究集会も主導的に進め、第2回IVS総会（国土地理院と共催）をつくば市において開催し、15か国、150名の参加者を得た。また、IVS技術開発センターシンポジウム、電子情報通信学会の衛星通信研究会／宇宙航行エレクトロニクス研究会の合同研究会等を開催し好評を得た。

その他、センター内ネットワークコンピューターのウィルス対策のためのガイドライン（和文／英文）を設け職員に限らず滞在者へも注意を喚起した。また、一般公開は、開催日を土曜に変更し、昨年を上回る1423名の来場者があった



衛星中継による「キリンカップ・サッカー」デモ（平成13年7月1日）